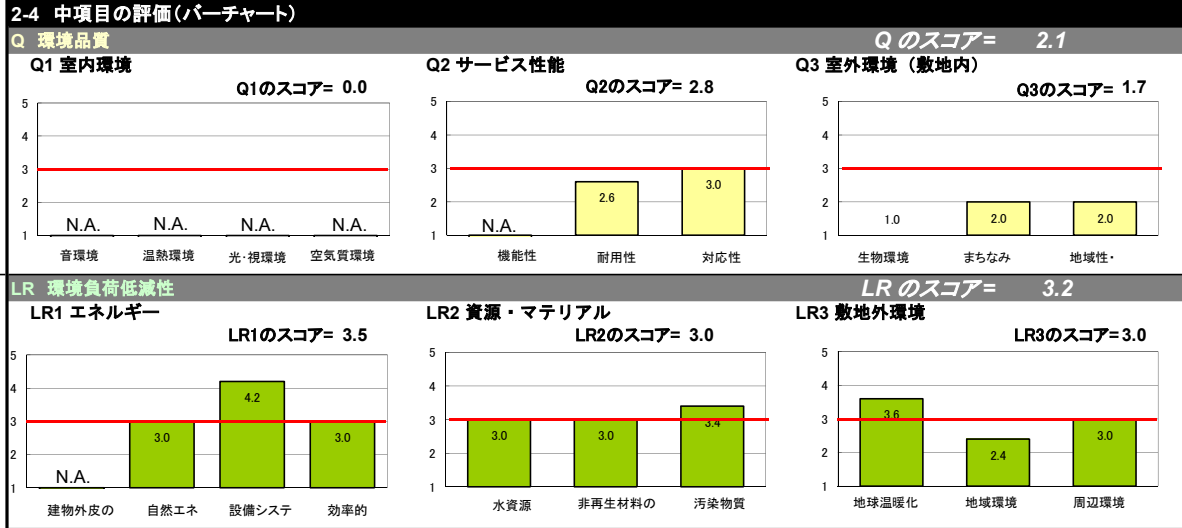
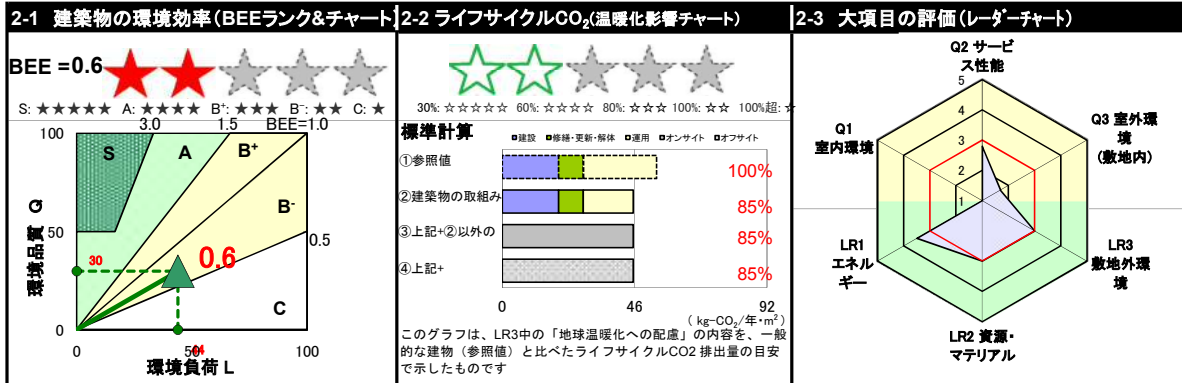


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)信光陸運株式会社本社増築	階数	地上3階建て
建設地	愛知県小牧市新小木一丁目30番、3	構造	S造
用途地域	市街化区域、準工業地域	平均居住人員	5人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年5月20日
敷地面積	5,304 m <sup>2</sup>	作成者	松山 竜吾
建築面積	1,394 m <sup>2</sup>	確認日	2019年5月23日
延床面積	2,679 m <sup>2</sup>	確認者	松山 竜吾



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p><b>3.6</b></p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p><b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p><b>2.8</b></p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮  
②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部	建物全体・共用部	居住・宿泊部分	居住・宿泊部分	全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>													<b>2.1</b>	
<b>Q1 室内環境</b>														
<b>1 音環境</b>														
1.1 室内騒音レベル														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
<b>2 温熱環境</b>														
2.1 室温制御														
1 室温														
2 外皮性能														
3 ソーン別制御性														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
<b>3 光・視環境</b>														
3.1 昼光利用														
1 昼光率														
2 方位別開口														
3 昼光利用設備														
3.2 グレア対策														
1 昼光制御														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
<b>4 空気質環境</b>														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														
4.2 換気														
1 換気量														
2 自然換気性能														
3 取り入れ外気への配慮														
4.3 運用管理														
1 CO <sub>2</sub> の監視														
2 喫煙の制御														
<b>Q2 サービス性能</b>													<b>2.8</b>	
<b>1 機能性</b>														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画														
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観 (天井高)														
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
<b>2 耐用性・信頼性</b>														
2.1 耐震・免震・制震・制振														
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														
2 免震・制震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														
2.4 信頼性														
1 空調・換気設備														
2 給排水・衛生設備														
3 電気設備														
4 機械・配管支持方法														
5 通信・情報設備														

<b>3 対応性・更新性</b>					3.0	0.48		-	3.0
3.1 空間のゆとり					3.0	0.31		-	
1 階高のゆとり					3.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38		-	
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22		-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57		-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温暖環境の向上					2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.2
<b>LR1 エネルギー</b>						0.40		-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制						-		-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	0.28		-	3.0
3 設備システムの高効率化				一部無電極照明を採用	4.2	0.43		-	4.2
4 効率的運用					3.0	0.29		-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-		-	
4.1 モニタリング						-		-	
4.2 運用管理体制						-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						0.30		-	3.0
1 水資源保護					3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.63		-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		内装を施さない鉄骨造建物	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.4	0.22		-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用				F☆☆☆☆の屋内鉄骨鎮止め塗装や塗床仕上げを採用	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68		-	
1 消火剤					2.0	0.33		-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33		-	
3 冷媒					3.0	0.33		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①		ライフサイクルCO2概算値:85%	3.6	0.33		-	3.6
2 地域環境への配慮					2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温暖環境悪化の改善					2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		独自		従業員駐車場やトラック待機場を確保している	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1 騒音		独自			3.0	1.00		-	
2 振動		独自			-	-		-	
3 悪臭					-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40		-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-	-		-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	

# 重点項目スコアシート

(仮称)信光陸運株式会社本社増築計画

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 信光陸運株式会社

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 倉庫兼事務所を含む既設建物に、倉庫部分を拡張した同一棟増築計画です。敷地周辺はトラックターミナルとなっており、トラックの通行量や路上駐車が非常に多い環境となっています。その為、車両の接触・衝突防止を考慮し、道路境界線には目隠しとなる得るフェンス等を無くしました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ※建物用途が倉庫のため、室内環境は対象外
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 用途が倉庫である特性上、余計な仕上げ材を施しません。また、階高や積載荷重については既設建物と同等とし、ゆとりある設計を行っています。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 関係条例に基づき計画敷地内を計画し、作業環境の効率化を図りました。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物用途が倉庫であるため、一般的な建築物に比べてエネルギー負荷が小さくなります。その為、自然エネルギー等の直接利用は取り入れていません。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 木材の利用はありません。再生材の利用については、実施設計段階で促していませんが、工事段階では積極的に利用を検討していこうと考えています。また構造が鉄骨造の為、建物解体時に分別やりサイクルが容易になります。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 トラックターミナルに面している為、他社の運送業者に迷惑がかからないように、トラックの乗入れがスムーズに行えるよう横断側溝の幅を広げました。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。